

地域医療支援病院の業務報告

	令和3年度	令和4年度
紹介率	88.6%	89.6%
逆紹介率	86.0%	89.3%
平均在院日数	16.3日	18.3日
病床利用率	60.1%	61.5%

地域連携室の活動状況(令和4年度)

かかわった入院	全入院患者の41.5%
かかわった退院	全入院患者の46.3%
相談件数	院内8,478件
	院外1,270件

栄養関連ニュース



今が旬！栄養満点トマトについて

●おいしいトマトの選び方

持った時に重量感があり、全体の色が均一で鮮やかなものを。また、お尻の放射状がはっきりしているものがおすすめです。

●特徴と種類

トマトの品種は果皮の色によって、桃色系・赤色系に大別されます。日本では、保存性に優れた桃太郎をはじめ、中東以上の生食用の品種は、ほとんど桃色系です。桃色系は、酸みやトマト臭が少なく、生食に向いています。加工用としての需要が大きい欧米では、酸みと甘みの強い赤色系のトマトが主流です。近年はフルーツトマトも人気があります。ちなみにフルーツトマトとは、特定の品種を指すのではなく、糖度が8度以上ありフルーツ感覚で食べられるトマトの総称です。

●保存法

鮮度の良いものは室温で一週間程度日持ちします。熟度が進んだものは冷蔵庫に入れ2～3日。赤く完熟したものは、ポリ袋に入れて冷蔵庫で保存すれば追熟しません。また、完熟したトマトは丸ごと冷凍すると、水で洗うだけで皮が簡単にむけるので便利です。

●栄養と効能

トマトはカロテンやビタミンCが豊富です。また機能性成分として、リコペンが挙げられます。抗酸化力があり、加熱に強いといった特徴もあります。また、カロテンやリコペンは油と一緒に摂ると、吸収力が高まると言われています。

引用：野菜の本

《基本理念》

地域医療支援病院 オープンシステム 徳山医師会病院は医道の昂揚、医学・医療の発達普及及び公衆衛生の向上、社会福祉の増進につとめます。

1. 人間としての尊厳を守り、良質で適切な医療・看護を目指します。
2. 全人的医療を目指し、十分な情報を提供し、信頼関係に基づいた医療を行います。
3. 病診連携を図り、一致協力し、地域社会の要請に応える医療を提供します。

《基本方針》

1. 安心安全の医療を推進します。
2. 患者さん本位の医療を推進します。
3. 地域に開かれた医療を展開します。



編集後記

梅雨の季節になりました。梅雨というと湿っぽくて洗濯物も乾かないし、気分ものらない、という事であんまり好きではない方も多いのではないのでしょうか。しかし、雨が降る「ぼつぼつ」や「しとしと」といった音には気持ちをリラックスし、集中する事の出来るアルファ波に変える効果があるそうです。梅雨の時期はどうしても憂鬱になってしまいがちですが、考え方や捉え方一つで良い方向に変える事もできます。何事にもプラス思考で向き合っていきたいと思います。



徳山医師会病院だより



2023年 第60号
発行元 地域医療支援病院
オープンシステム
徳山医師会病院
〒745-8510
周南市東山町6番28号
TEL 0834-31-2350
FAX 0834-31-1623
<http://www.tokuyamaishikai.com/>



令和5年度入社式を開催致しました



今年度も感染対策を充分に行い、4月3日に入社式を執り行いました。8名の新入職員が入职し、医療従事者として新たな一歩を歩み始めました。新しい仲間とともに今後も地域医療に貢献できるよう努めてまいります。



徳山医師会病院



当院では受診の際「開業医」の紹介が必要です。
当院での診察や検査をご希望の方は「かかりつけ医」若しくは「開業医」へご相談ください。

徳山医師会病院 新病院長就任のご挨拶



当院は昭和41年4月に開院以来、地域の皆様の健康を守るために全国で唯一の完全オープンシステムを病院運営の根幹とし、患者さんの初診から入院中、また退院後も地域の開業医が主治医となって切れ目のない診療を行ってきました。この50年余り地域の皆様と信頼関係を築き、皆様が安心して病気の治療や予防に専念できるように、病院職員は一丸となって開業医を支えてきました。

平成13年には山口県で2番目に地域医療支援病院として指定され、平成18年には日本医療機能評価機構からバージョン4を取得し、その後も山口大学医学部や徳山中央病院等からコンサルタントを招き、全国からも優れた専門医等の招聘によって病院機能のレベルアップと高い医療水準を維持しています。また、平成25年5月には新病棟が竣工し、より良い診療環境と患者さんに快適な環境を提供することを目指しています。

日本で進む少子高齢化は、医療費や介護費用の増大とともに地域医療体制の再編をも余儀なくさせています。今後は二次医療圏での地域医療支援病院のさらなる機能分化と連携が求められます。周南地域では幸い徳山中央病院を基幹病院とした地域完結型医療体制が機能しています。今後も地域の病院や診療所との連携をさらに進めるために「周南ケアねっと」の円滑な運営も期待されます。地域の独居老人のケアや認知症のケアについても徳山医師会病院が果たすべき役割は大きいと考えます。

「かかりつけ医」が安心して利用できる病院として、何よりも地域の皆様に信頼される心地の良い病院としてその機能を充実したいと病院職員一同は思っています。そのためにも地域の皆様のご協力を得て行政機関や教育機関等とより一層の協力体制を築きたいと願っています。

病院長
中村 和行

新任ドクター着任のご挨拶



循環器内科部長
三浦 俊郎 先生

[認定]
日本循環器学会専門医、FJCS
日本心臓病学会 FJCC
日本内科学会 総合内科専門医

2023年4月1日より徳山医師会病院循環器内科部長として赴任いたしました三浦です。前職は徳山中央病院総合診療内科診療部長兼附属介護老人保健施設長です。

私は昭和56年に山口大学医学部を卒業し 第二内科(現在の器官病態内科学)に大学院生として入学し循環器内科 特に心臓カテーテル検査や冠循環の研究を行い 昭和60年に学位取得いたしました。その後 昭和61年に徳山中央病院循環器内科に赴任し、昭和63年にカリフォルニア州立大学サンディエゴ校に2年間留学し 心機能と冠循環、心臓MRIなどについて研究いたしました。帰国後 心臓MRI検査を立ち上げ、山口大学病院では、循環器診療 特に冠動脈CTと虚血心筋保護の研究を行ってきました。2002年には、ヒューストンにあるベイラー医科大学に文科省の在外研究員として10ヶ月留学し 新たに心筋再生について研究を行いました。帰国後約10年にわたり 組織幹細胞からの心筋再生についての研究を行いました。第二内科准教授を経て、2013年から徳山中央病院 総合診療内科を立ち上げ地域医療、研修医の臨床教育、循環器疾患の画像診断などに携わりました。3年半前からは附属老健の施設長も兼任し 老人医療についても研鑽を積ませていただきました。

66歳になり徳山中央病院を定年退職し 新たに徳山医師会病院で これまでの経験を生かして地域医療に貢献したいと考えております。心臓の画像診断は徳山医師会病院でも、できるだけ施行させていただきたいと存じます。また心臓リハビリテーションを前任者が立ち上げられていますので、こちらもお手伝いさせていただきたいと考えています。今後 患者様、徳山医師会の先生方、病院のスタッフの皆様のお役に立ちますよう努力していきたいと考えておりますので ご指導ご鞭撻のほどお願いいたします。

2023年 4月30日
三浦 俊郎